

県内JAのニュースを紹介します

フラッシュ



J A 青森

青森市浪岡地区りんご剪定大会（1／19）

青森市りんご生産改善推進協議会が主催するりんご剪定大会が管内の浪岡地区園地で開催され、寒空の下、生産者、関係者合わせて約100人が集まった。

剪定実技は、わい化樹と丸葉樹に分かれて行われ、浪岡地区のりんご剪定士6人が講師を務めた。参加者たちは高品質なリンゴ作りを目指し、講師の解説に熱心に耳を傾けた。



J A ごしょつがる

水稻部会 米概算金2万円の春先提示を要望（12／29）

水稻部会の太田英樹部会長を含む役員3人は、JA本店を訪れ、JA役員に対し令和8年産米について、主要品種60%2万円を目安とした概算金価格の決定と、春先の早い段階での提示、販売実績に応じた追加払いを手厚くするよう要望した。

肥料や燃料など生産費の高止まりが続く中、令和8年産米は需要緩和による米価下落が危ぶまれており、先行きを見通せる価格提示が、水稻生産の維持・発展につながるとして、JAと意見交換を重ねていく考えだ。

リンゴ学習 最終回を迎える（12／12）

弘前市立中央公民館相馬館において、相馬小学校3年生の10人がリンゴ学習の締めくくりとしてリンゴを使ったお菓子作り教室を開催した。一年を通してリンゴについて学び、先月は直売センターでの販売も行った。児童たちは女性部員のサポートを受けてアップルパイとクレープを作った。

担任の田澤先生は「リンゴ学習は、小学校生活の中で最も楽しかった思い出として挙げる子もいる」と話してくれた。



J A つがるにしきた

女性部 園児と一緒にシャカシャカおにぎり作り（1／15）

女性部富蒼支部は、つがる市の車力こども園で、児童33人とおにぎり作りを行った。地域のこどもたちと交流を深めようと、女性部の松橋久美子部長が企画した。

米は松橋部長が栽培したものを使用し、紙コップにご飯を入れ、ラップと輪ゴムで封をして上下に振ると、あっという間にまん丸おにぎりが完成。園児たちは楽しそうに紙コップを振りながら、おにぎり作りに挑戦していた。できあがったおにぎりは、給食と一緒に味わい、終始笑顔で交流した。



J A つがる弘前

女性部は、「楽しく学んで新たな仲間づくり」をテーマに「食×農×暮らし・ほほえみサークル」を開催。食や農、暮らしに関わる様々な講座を開催している。

管内5ヶ所で弘前市小比内にある「(有)フラワー・ハウス花ことば」のフラワーデザイナー北畠美貴さんを講師に招き、正月用のフラワー・レンジメント講座を行った。参加者は、花が美しく見える配



J A 相馬村



JA津軽みらい

青年部が正月用の餅づくり（12／29）

黒石地区青年部は、JA黒石支店内の調理室で、正月用の餅作りを行った。青年部員ら14人が参加し、もち米100㌘で鏡餅と伸し餅を作り、申込者へ販売した。この活動は地域貢献を目的として毎年行っており、餅つき機で作った餅を部員らが手作業で形を整え、鏡餅を成形している。

工藤佑弥部長は「正月用の餅作りは年内最後の大事な行事なので、無事に開くことができてうれしい。青年部が作った餅で良い年を迎えてほしい」と話した。

**堆肥活用に有望視（1／14）**

当JAでは、畜産農家の堆肥を化学肥料の代替資材として利用する土づくりを進め、持続可能な循環型農業の実現を目指している。JA本店で堆肥品評会を開き、管内の農家から9点の堆肥が出品され、JA役職員や県関係機関などの職員が「汚物感」や「悪臭」などの項目と成分データを審査し、品質や実用性を確認した。

全国土壤分析研究会の会長を務めるJAの斗澤康広専務は「生産コストが上昇する中、堆肥活用は今後さらに有望視されるのではないか」と期待を高めている。

お正月のしめ飾り作り（12／13）

下長支店は、営農センターで地域ふれあい活動として親子で正月のしめ飾りを作り、14組の親子が参加した。初体験という参加者が多く、親子で「わらを膝で押さえながら、編み込むのが難しい」と苦戦。女性部員から指導を受け、扇子などで飾り付けをし、きれいなしめ飾りを完成させた。

しめ飾り作り終了後には、児童を対象とした餅つき体験や食農クイズを楽しんだ。また、女性部特製の鶏汁、市川町産のイチゴを使ったイチゴジュースを堪能。

会場は、和気あいあいとした雰囲気に包まれていた。

**牛乳消費PR（1／6、7）**

当JAは、事業管内である4町村（東北町、七戸町、野辺地町、六ヶ所村）を訪問し、牛乳の消費拡大に向けて各町村それぞれに県産牛乳（1本200㍉㍑）100個を寄贈した。

年末年始の学校給食の停止などにより消費量が落ち込む一方で、冬は乳牛の生産量が増加。生産量と消費量の差が開き、余りやすい時期のため、消費拡大に向けて県産牛乳をPRした。

天間一博組合長は「冬は牛乳が濃く一番おいしい時期。たくさん飲んでほしい」と呼び掛けた。

**藍染め教室（1／14）**

女性部三沢支部は、令和3年から続けている藍染め教室を開催した。今回の藍染め教室には、同部員11人が参加した。

大鍋で藍の葉を煮出して濾す作業を3回繰り返し、色素を抽出した液体に、各々が持ってきた衣類やタオルを浸して取り出すと、初めは黄緑色だったものが空気に触れ酸化するにつれて徐々に鮮やかな藍色に変わっていき、色の変化や仕上がりに参加者はとても楽しそうな様子だった。



JA八戸

認知症センター養成講座開催

J A青森中央会は1月16日、青森市の青森県農協会館で「認知症センター養成講座」を開催した。JAバンク青森、JA全農あおもり、JA共済連青森、青森県農協電算センター、中央会の職員ら24人が参加した。

同講座は、第30回JA青森県大会において決議した「豊かなくらしの実現と地域社会の活性化」における「高齢者等地域見守り活動」として、平成29年度より実施し、今回で9年目となる。青森県は全国と比べて高齢化が進んでおり、認知症への配慮や周囲の理解が必要となる場面が増えることが予想され、認知症に関する基礎的な知識だけではなく、日常業務の中でどのような点に気を配るべきかを学ぶ貴重な機会となる。

同講座では青森市東青森地域包括支援センターの職員が講師を務めた。「認知症を正しく理解しよう！」をテーマに、認知症のとらえ方や症状の現れ方、サポートの方法について、同センター職員の寸劇や青森市の事例を紹介しながら説明した。講師は「日本は今、超高齢化社会となっている。青森市の高齢化率は全国平均を上回る勢いであり、今後も増加が見込まれる。家族や身近な人に症状が現れる可能性もあるため、講座を通じて知識を得て、適切にサポートをしてほしい」と述べた。

参加者は「認知症の方の意思を尊重することが大事だとわかった。また、仲間の大切さも再認識できた。仮に私自身が認知症になることも考え、人とのつながりを絶やさないようにしたい」と感想を述べた。



▲講義を聞く参加者

新規就農者交流会 お互いの悩みを共有

J Aグループ青森は1月20日、弘前市の青森県武道館で「新規就農者交流会」を開催した。県内各JAの就農予定者をはじめ、就農5年目までの新規就農者ら14人が参加した。

本交流会はJA青森中央会が昨年度実施した新規就農者へのヒアリング調査で「気軽に相談できる仲間が欲しい、農家同士で交流できる場が欲しい」との声が多数挙がったことを受け、開催したもの。参加者はグループに分かれて情報交換を行い、コミュニティづくりや栽培・経営に関する知識を深めた。

意見交換では、栽培品目などを自己紹介した後、農作業で困っていることや悩みなどを話し、対処方法や自身の取り組みなど意見を出し合った。参加した就農予定者は「実際に就農している先輩農家の話を聞くことができ、励みになった」と話し

た。

基調講演では弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科の成田拓未教授が「農産物マーケティングの基礎理論と実践」と題し、農産物の特徴を意識したマーケティングの理論について講演し、参加者は市場の流通経路や販売戦略、農業経営を続けるためのポイントを学んだ。

また、JAグループ青森四連（JA青森中央会、JA全農あおもり、JA共済連青森、JAバンク青森）が農家をサポートする取り組みや商品を紹介し、青森県農林水産部構造政策課の担当者は「青森県農業経営・就農サポートセンター」について説明した。

参加者は「悩みを共有でき、皆さんと同じ悩みを持っていて少し安心した。同世代の人と話すことができ、また機会があれば参加したい」と述べた。

J Aグループ青森は今回の交流会をきっかけに、新規就農者との繋がりを強めることで、これまで以上に新規就農者支援の充実につなげる。



▲意見交換をする参加者

行事（2/10～3/10）

2月

- 10日 定例理事会（県農協会館）
- 10日 JA総務管理担当常勤理事会議（アップルパレス青森）
- 12日 県参協定例会（県農協会館）
- 12日 第2回JA営農担当部課長会議（アスパム）
- 13日 会計制度基礎研修会（県農協会館）
- 16日 非常勤理事研修会（アップルパレス青森）
- 19日 第3回JA支援対策会議（県農協会館）
- 20日 人事労務研修会（県農協会館、WEB）
- 28日 農政学習会（県農協会館）

3月

- 2日 県JA協議会JA常勤役員情報交換会（県農協会館）
- 5日 初任者向け経営管理研修会（県農協会館、WEB）
- 6日 経営管理研修会（県農協会館、WEB）
- 9日 県女性協第7回定例理事会（県農協会館）
- 10日 定例理事会（県農協会館）

延滞債権管理サブシステム県域説明会の実施

農林中央金庫青森支店は、2025年12月23日に延滞債権管理サブシステム県域説明会を実施した。10JA 82名がWEBで参加した。

延滞債権管理サブシステムは、貸出システムの1つであり、これまで紙媒体や帳票で行ってきた延滞管理を、貸出システム端末上で一元的に管理できるようにするもの。システム化により、案件管理や架電督促、月次報告、代位弁済請求といった一連の業務の効率化を目指す。

説明会では、導入に必要な手順・マニュアルをもとに導入後の業務フロー等を学んだ。

一部JAではすでに運用を開始しており、2026年2月からは全JAでの完全稼働を予定している。



▲説明会の様子

FP試験対策講座の実施

農林中央金庫青森支店では、2026年1月8日・9日にFP試験対策講座を実施した。7JA 16名が参加した。

FP（ファイナンシャル・プランナー）とは、家計にかかわる金融、税制、保険などの幅広い知識を備え、相談者の総合的な資金計画をサポートする専門家のことで、

本講座ではJAの総合事業体としての強みを生かし、組合員の暮らしによりよいサポートを提供するため、FP技能士の資格取得のサポートを目的とするもの。

主にテキストと問題集を使用し、頻出順に要点となるポイントを中心に講師による説明が行われた。



▲講座の様子

行事（2/10～3/10）

農林中央金庫

2月

- 13日 資産形成（クロージングフォロー一編）研修（県農協会館）
- 17日 反社会的勢力対応研修（*）
JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）

3月

- 1日 163回銀行業務検定／
コンプライアンスオフィサー認定試験（各会場）

農協電算センター

2月

- 10日 定時取締役会（県農協会館）

3月

- 10日 定時取締役会（県農協会館）

(*)はウェブ会議

第21回青森県JA農産物検査員鑑定競技大会の開催

J A全農あおもりと青森県JA農産物検査協議会は1月20日、青森市の県農協会館で「第21回青森県JA農産物検査員鑑定競技大会」を開いた。2005年から農産物検査員の技術の研鑽と維持・向上を目的として開いている。今年度は、県内8JAから22人が参加した。

競技は水稻うるち玄米及びもち玄米40点を30分以内で等級判定し、400点の持ち点から等級相違と時間超過による減点方法により採点した。

最優秀賞にはJA八戸の上村僚さん、優秀賞にはJA青森の西塚博文さんがそれぞれ選ばれ、県代表として2月20日に千葉県で開かれる「JAグループ全国農産物鑑定会」へ県代表として出場する。

その他の入賞者は次の通り。かっこ内はJA名。
△優良賞=道川誠一（津軽みらい）、三上慶（つがる弘前）、泉荘（つがる弘前）



▲鑑定をする上村さん

ベトナムで青森県産りんごの販促イベントを開催

J A全農あおもりは1月25日、ホーチミン市内にあるイオンタンフーセラドン店で2月17日のテト（旧正月）に向けた需要喚起を図るため、青森県産りんごの販促イベントを開催した。

イベントの中では、運営委員会の乙部輝雄会長が「青森県産りんごがベトナムへ輸出され11年目となり、今年もベトナムの皆様へお届けできるこ



▲あいさつをする乙部会長

とを大変うれしく思う。品質の高い、おいしいりんごをお届けするので、引き続き愛顧いただきたい。」とあいさつをした。会場では試食やアンケートのほか、より深く親しみを持ってもらうため青森県産りんごに関するクイズ形式のミニゲームも開催し、来場者からは「青森県産りんごは香りが良く食感が素晴らしい」と好評の声が多く寄せられ、イベントは大いに賑わった。この他、現地の輸入・卸業者2社でも、販促イベントや商談を行なった。

今後も、青森県産りんごの輸出拡大に向け、国外の売り場の構築に積極的に努めていく。

牛乳ごっくんキャンペーン第3弾抽選会の実施

J A全農あおもりと青森県牛乳普及協会は1月29日、青森市の県農協会館で、令和7年12月1日から令和8年1月18日まで実施した2025年度第3回目となる「牛乳ごっくんキャンペーン第3弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計8,592件の応募の中から、当選者220人を決定した。

当選者には賞品として、あおもり和牛サーロインステーキを10名様、水切りヨーグルトができる容器（S T—3000）を30名様、季節のヨーグルトセットを80名様、また外れてしまった方にもダブルチャンス賞として100名様にオリジナルグッズをプレゼントする。

県牛乳普及協会の担当者は「今年度もたくさんの応募があった。来年度も実施を検討しているので、継続して県産牛乳を飲んでもらえたら」と話す。



▲抽選会を行う担当者ら

行事（2/10～3/10）

2月	
10日	運営委員会（農協会館）
3月	
7～8日	鹿児島フェア in 青森（青森県観光物産館アスピアム）
10日	運営委員会（農協会館）

令和7年度 JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール全国審査会結果報告

J A共済連は、11月21日(金)に書道コンクール、11月26日（水）に交通安全ポスターコンクールの全国審査会を実施し、青森県の応募作品から書道は計7点（条幅の部3点、半紙の部4点）、交通安全ポスターは計3点が入賞した。

両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を、次代を担う小・中学生へ伝えていくとともに、児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、また、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚と交通安全思想の普及・浸透を図ることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

今年度で、書道コンクールは69回目、交通安全ポスターコンクールは54回目の開催を迎えました。

▼全国の応募状況

部門	応募学校数	応募作品数
条幅の部	11,669校	66,858点
半紙の部	16,971校	865,942点
交通安全ポスターの部	5,508校	73,481点

全国審査会では、各都道府県コンクールで優秀な成績を収めた作品を対象に、書道841点（条幅の部419点、半紙の部422点）、交通安全ポスター352点の審査が行われました。書道コンクールでは高木聖雨氏（日本芸術院会員・日展理事）をはじめとする審査員が審査を行い、交通安全ポスターコンクールでは中島祥文氏（多摩美術大学名誉教授・アートディレクター）をはじめとする審査員が厳正なる審査を行い、入賞作品が決定された。

青森県からは、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の最優秀賞作品27点が全国コンクールに出展され、書道の部は全国共済農業協同組合連合会会长賞・銅賞1点、佳作6点が受賞した。交通安全ポスターの部は全国共済農業協同組合連合会会长賞・銀賞1点、銅賞1点、佳作1点が受賞しました。

受賞した皆さん、おめでとうございます。
(受賞者は次のとおり)

●書道の部

〈条幅の部〉

- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
藤田 和花さん（五所川原市立栄小学校2年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
葛西 龍さん（黒石市立中郷中学校2年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
久保田 瑞華さん（藤崎町立明徳中学校3年）

〈半紙の部〉

- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・銅賞
野呂 依央さん（つがる市立向陽小学校2年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
齋藤 莉里愛さん（青森市立浪岡野沢小学校5年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
福原 心美さん（黒石市立黒石中学校2年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
工藤 莉世さん（黒石市立黒石中学校3年）

●交通安全ポスターの部

- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・銀賞
滝渕 咲良さん（青森市立浪打小学校5年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・銅賞
對馬 花さん（青森市立小柳小学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会长賞・佳作
山下 楓禾さん（西目屋村立西目屋小学校2年）

●第69回 JA共済 全国小・中学生 書道コンクール 学校賞

- ・八戸市立鮫中学校 様

●第54回 JA共済 全国小・中学生 交通安全ポスターコンクール 学校賞

- ・五戸町立川内中学校 様



行事（2/10～3/10）

2月

- 10日 運営委員会（県農協会館）
- 19～ 仕組改訂・事務改善事項研修会
- 3月31日 (キャリアアップ受講)

3月

- 10日 運営委員会（県農協会館）



あおもり通信

— 農林水産省からJA関係者へ情報発信 —

連絡先

農林水産省東北農政局
青森県拠点地方参事官室
TEL : 017-775-2151

2025年農林業センサス結果の概要（青森県）（概数値） (令和7年2月1日現在)

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査です。

令和7年11月28日に概数値が公表されましたので、青森県の状況をお知らせします。

1 農業経営体数

個人経営体は20.8%減少
法人経営体は 2.6%減少

青森県の農業経営体数は、2万3,127経営体で、5年前に比べ5,895経営体（20.3%）減少しました。このうち、個人経営体は2万2,355経営体、団体経営体は772経営体となり、5年前に比べそれぞれ5,877経営体（20.8%）、18経営体（2.3%）減少しました。

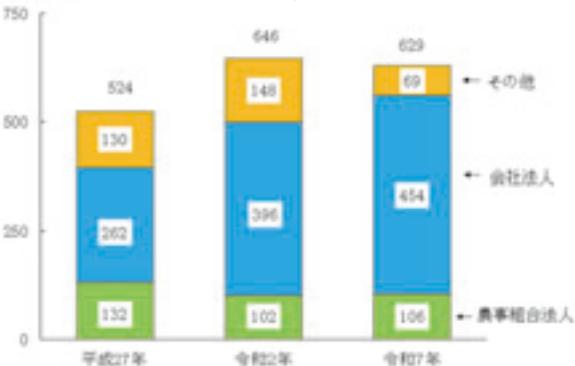
団体経営体のうち法人経営体は629経営体で、5年前に比べ17経営体（2.6%）減少しました。

表 農業経営体数(青森県)

単位:経営体

区分	農業 経営体 ①+②	個人 経営体 ①	団体 経営体 ②	法人 経営体
平成27年	35,914	35,037	877	524
令和2年	29,022	28,232	790	646
令和7年	23,127	22,355	772	629
増減率（%）				
令和2年/ 平成27年	△ 19.2	△ 19.4	△ 9.9	23.3
令和7年/ 令和2年	△ 20.3	△ 20.8	△ 2.3	△ 2.6

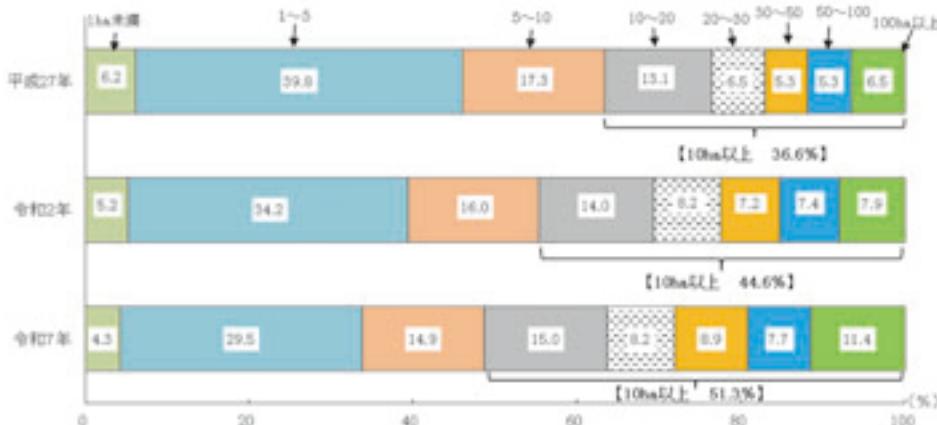
図1 法人化している農業経営体数(青森県)



2 経営耕地面積の集積割合

青森県の農業経営体の経営耕地面積規模別に構成割合をみると、経営耕地面積が10ha以上ある農業経営体が51.3%を占め、5年前に比べ6.7ポイント上昇しました。

図2 経営耕地面積規模別経営耕地面積割合(青森県)



詳細については
東北農政局ホームページをご覧ください。

[https://www.maff.go.jp/
tohoku/stinfo/kekka/](https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/)



実践 農業者支援

機能性表示食品制度の見直し内容について

1. はじめに

機能性表示食品制度は、国が定めるルールに基づき、事業者自身が食品の安全性や機能性に関する科学的根拠など必要な事項を、消費者庁長官へ届け出ることで、その機能性を表示できる制度です。なお、その機能性について国による審査は行われませんので、事業者は自らの責任において、科学的根拠に基づいた適正な表示を行う必要があります。

2. 機能性表示食品制度の自己点検等報告が必須に！

健康被害が広範囲に及んだ紅麹関連製品の事案を受け、機能性表示食品制度の信頼性を高め、回復するため、事業者が届出後の遵守事項を定期的（年1回）に自己点検し、その結果を消費者庁ウェブサイトで公表することが必須となりました。公表期日を守らない場合、その商品・製品等に機能性表示をして販売することができなくなります。

自己点検等報告の期日

1回目の報告	機能性表示食品に関する届出に係る届出番号が付与された日から起算して1年を経過する日まで。 ※令和7年3月31日までに届出番号が付与された届出は令和7年度中
2回目以降の報告	前回の報告月の末日の翌日から起算して一年を経過する日まで

3. 自己点検等報告の内容について

今後、毎年行うことになる報告の遵守事項には、以下の内容が含まれます。

- ① 安全性および機能性の根拠に関する事項
- ② 生産・製造および品質管理に関する事項
- ③ 健康被害情報の収集および提供に関する事項
- ④ 遵守状況等の自己点検および評価、並びにその結果の報告に関する事項



届出者は、届出データベースを用いて消費者庁長官に報告します。期日を超過するとシステム操作ができなくなり、機能性表示をしての販売ができなくなります。

4. 届出情報の表示方法の見直しについて

令和6年9月1日に食品表示基準の一部を改正する内閣府令が施行され、機能性表示食品と「特定保健用食品（トクホ）」との違いや、摂取上の注意事項の記載方法、表示方法や表示位置などが見直されました。

この届出情報の表示方法の見直しについては経過措置期間が設けられ、令和8年9月1日から新基準が適用されます。経過措置期間の終盤には消費者庁による確認期間が長期化することが予想されるため、事業者には可能な限り速やかに改正後の表示基準に基づく表示見本で届出を行うことが求められています。

5. まとめ

この制度の見直しは、JAにも関係があります。本県JAで機能性表示食品を扱っている例もあり、他県でも多くの事例があります。また、注意が必要なのは、終売予定や販売休止中の食品であっても、事業者が「撤回届」を提出していない場合は、毎年自己点検等報告を行う必要があることです。

機能性表示食品の自己点検等報告に関する詳細や最新情報は、消費者庁ホームページに掲載されていますので、担当者の方は必ずご確認ください。

(中央会 農業対策部)

組織農政通信

SNSの活用による広報力強化の取組み

1. 広報力強化にむけて

(1) 第30回JA青森県大会

J A青森中央会では第30回JA全国大会の内容を鑑み、第30回JA青森県大会において「農業・JAに対する理解・共感の醸成」を重点目標の1つに定め、戦略的な広報活動により、JAグループ内外に積極的に情報発信を行う事を確認している。

情報発信による農業・JAグループに対する理解醸成については、県産農畜産物への理解・消費拡大に向け、消費者に対しSNS等を活用した情報発信に取り組むこととした。

(2) 広報体制強化

県内の広報担当者のスキルアップと広報体制の強化を図るため、「広報担当部課長および担当者合同会議」と「日本農業新聞通信員会議および研修会」を年2回開催し、各JA・連合会の広報担当者の情報共有と研修を行っている。令和7年度は日本農業新聞の記者、編集者を招き、新聞記事作成や写真撮影のコツを学んだ。さらに今年度は県外視察研修として、広報活動における先進JAを訪れ、組織体制やSNSの活用方法を学んだ。

また、青森県全体で横のつながりを強化し、一丸となって広報力の向上を進めるために2026年2月に広報担当者ミーティングを開催し、今年度の取組み内容や課題を共有、次年度の広報活動に活かすこととしている。

2. 公式SNSの開設

J Aグループに対する理解・共感醸成によるファンづくりにおいては、JAグループが一体となった情報の発信・収集強化が必要であり、その重点訴求対象に「子育て層(20~40代を想定)」と「若年層(~20代を想定)」を位置づけている。これら重点訴求対象に効果的な広報が、SNS等のウェブメディアを活用した情報発信と見込んでいる。

J A青森中央会ではこれまで広報誌や日本農業新聞、ホームページを活用し情報を発信してきたが、2025年9月よりInstagramの公式アカウントを開設した。SNSでは国消国産の取り組みや、中央会が企画または参加するイベントの情報を発信。SNSの特徴を最大限に活用し、映えを意識した写真や、映像資料で分かりやすく、楽しくてワクワクする情報を届けることを目指している。SNSを活用してJAのファンを増やし、食や農業、JAへの理解醸成と行動変容に取り組む。

本広報誌をご覧の皆さん、ぜひフォローをお願いします。



3. JA全中：令和7年度JAインスタコンテストを終えて

J A全中ではSNSのさらなる活用や技術力の向上と、JAグループが一体となり「農」「食」「JA」の魅力をSNSで情報発信強化することを目的に国消国産月間(10月~11月)において、「令和7年度JAインスタコンテスト」を開催。青森県からはJAゆうき青森が写真部門で入賞を果たした。審査委員からは「写真が美しいだけでなく、タイムリー性と驚きの要素で共感を集めた。光の取り入れ方や構図など、SNS向けの撮影が上手である」と評価をいただいた。

J Aゆうき青森の投稿はこちら→



4. 最後に

J A青森中央会は、引き続き広報力強化による農業・JAに対する理解・共感の醸成に向け、各JAと連携し取組みを進めていく。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

令和7年度 JA職員資格認証試験結果

1. 各種別の受験状況と試験結果

今年度のJA職員資格認証試験の結果がまとまりましたので報告します。

初級・中級・上級の受験者総数は230人で、前年度の248人から18人減少しました。合格者数は122人で、前年度の141人から19人減少しました。特に初級の合格率が減少しました。

各種別の内容については次のとおりです。

(1) 初級

受験者は70人で、前年度から10人増加しました。科目別の平均点は、すべての科目で全国平均を下回りました。合格者は40人で、前年度から5人減少し、合格率も57.1%と前年度から17.9ポイント減少しました。

(2) 中級

受験者は80人で、前年度から13人減少しました。科目別の平均点は、すべての科目で全国平均を下回りました。合格者は38人で、前年度から8人減少し、合格率も47.5%と前年度から2ポイント減少しました。

(3) 上級

受験者は80人で、前年度から15人減少しました。科目別の平均点は、昨年同様「JA経営管理・農業協同組合論」では全国平均を下回ったものの、「JA財務・管理会計」と「JA人事管理」では県平均が全国平均を上回りました。合格者は44人で、前年度から6人減少しましたが、合格率は55.0%と前年度から2.4ポイント増加しました。

※ 詳細は、下表「種別」試験結果概要をご覧ください。

2. 受験目的の再確認と人材育成の強化

本稿には記載していませんが、JA別の合格率をみると各種別とも50%を下回るJAがありました。当試験の目的は、JAに従事する職員の資質を高め、技能を磨くとともに職員の地位の向上を図ることになります。

合格者を多く輩出することは、JAにとってJA全般の知識を有し、JAのため、組合員のため、職員のため、あらゆる立場に立って対応できる職員を育成することにつながります。

受験する職員にとっても、各種別の科目は階層別に求められる知識であり、業務を遂行するにあたっても必要な知識の習得になります。

また、当試験に合格することは、合格一時金・毎月の手当の支給や昇格基準への反映などメリットも多いと思われます。

各JAにおいては、人材育成の強化のため、各試験の合格目標を設定するなど、資格取得に向け引き続き取組んでいただきたいと思います。

(JA青森中央会 経営対策部)

「種別」試験結果概要

○初級

「科目別平均点等」

(点、人)

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	60点以上取得者
J A 基 础	73.5	74.8	94	49	58
農 業 情 勢 基 础	61	62.8	91	32	34
J A 簿 記 基 础	59.3	62.6	93	25	33

○中級

「科目別平均点等」

(点、人)

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	60点以上取得者
J A事業論・協同組合論	68.6	71.6	96	41	49
農 協 法	58.3	59.8	94	24	33
J A 簿 記 会 計	57.7	60.5	97	14	31

○上級

「科目別平均点等」

(点、人)

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	60点以上取得者
J A経営管理・農業協同組合論	63.5	64	90	24	43
J A財務・管理会計	56.2	54.6	90	15	35
J A 人 事 管 理	71.6	68.3	98	37	44

(人、%)

	R 7	R 6	R 7-R 6
受 験 者 数	70	60	10
合 格 者 数	40	45	△ 5
合 格 率	57.1	75.0	△ 17.9
科 目 合 格 者 数	21	8	13

(人、%)

	R 7	R 6	R 7-R 6
受 験 者 数	80	93	△ 13
合 格 者 数	38	46	△ 8
合 格 率	47.5	49.5	△ 2.0
科 目 合 格 者 数	18	22	△ 4

(人、%)

	R 7	R 6	R 7-R 6
受 験 者 数	80	95	△ 15
合 格 者 数	44	50	△ 6
合 格 率	55.0	52.6	2.4
科 目 合 格 者 数	17	21	△ 4

令和7年度認証試験合格者名簿

初級（40人）

J A名	氏 名
青 森	内 海 重 知
青 森	工 藤 美 紀
青 森	武 田 愛 実
つがるにしきた	三 上 小 春
つがるにしきた	打 越 大 芽
ごしょつがる	大坂谷 彩 花
ごしょつがる	成 田 聖 子
ごしょつがる	島 村 恵 美
ごしょつがる	阿 部 悠 理
ごしょつがる	天 坂 梓
ごしょつがる	小 嶋 弘 幸
つがる弘前	花 田 鈴 加
つがる弘前	清 野 陸 斗
つがる弘前	佐 藤 香 葉
つがる弘前	石 岡 知 乃
つがる弘前	石 田 勇 武
相 馬 村	花 田 真 弓
相 馬 村	仲 村 郁 奈
相 馬 村	成 田 悠 詩
相 馬 村	葛 西 ひかり
津 軽 み ら い	盛 裕 樹
津 軽 み ら い	佐 藤 淳 美
津 軽 み ら い	奈良岡 祥

中級（38人）

J A名	氏 名
青 森	畠 中 麻 希
青 森	成 田 美 央
つがるにしきた	鈴 木 啓 太
つがるにしきた	小 山 内 聖 羅
つがるにしきた	工 藤 茜
ごしょつがる	対 馬 楓
ごしょつがる	太 田 温 斗
ごしょつがる	高 橋 広 明
ごしょつがる	成 田 涼
ごしょつがる	高 橋 由 美 子
ごしょつがる	成 田 ひとみ
つがる弘前	前 田 伶
つがる弘前	田 村 華
相 馬 村	蒔 苗 陸
相 馬 村	清 野 晴 菜
津 軽 み ら い	佐 藤 椎 菜
津 軽 み ら い	齋 藤 慶 汰
津 軽 み ら い	古 川 竜 我
津 軽 み ら い	工 藤 心 優
十和田おいらせ	西 山 仁 人
十和田おいらせ	佐々木 修
十和田おいらせ	馬 場 千 佳 子
十和田おいらせ	工 藤 優 真

上級 (44人)

J A名	氏 名	J A名	氏 名	J A名	氏 名
ゆうき青森	甲地美咲	青森	佐藤尚彰	津軽みらい	赤石智也
おいらせ	箕輪匠	つがるにしきた	小笠原宰	津軽みらい	丸山郁哉
八戸	小滝怜子	つがるにしきた	間山友博	津軽みらい	猪股和友
八戸	松ヶ崎竜一	ごしょつがる	太田舞	津軽みらい	奥村孝
八戸	小川文香	ごしょつがる	松澤希春	津軽みらい	小枝玲美奈
八戸	西野つぐみ	ごしょつがる	新谷幸子	津軽みらい	佐々木沙耶花
八戸	上野博子	ごしょつがる	宮崎浩美	十和田おいらせ	羽田圭佑
八戸	滝川杏子	ごしょつがる	神成裕果	十和田おいらせ	鈴木康平
八戸	工藤明志乃	ごしょつがる	加藤麗樹	十和田おいらせ	安井和貴
全農あおもり	小嶋綜志	ごしょつがる	薬師神真美	十和田おいらせ	板井玲美
全農あおもり	成田淳子	ごしょつがる	対馬恭平	ゆうき青森	乙崎恵梨
青森中央会	進藤太一	ごしょつがる	松橋亜津里	ゆうき青森	上崎櫻華
青森中央会	藤木優衣	つがる弘前	葛西佳奈	ゆうき青森	VU DINH GIANG
青森中央会	石田裕太郎	つがる弘前	成田唯奈	おいらせ	東将也
青森中央会	横山達哉	つがる弘前	佐藤皓一	八戸	小原奈央子
		つがる弘前	対馬賢亮	八戸	松坂周子
		つがる弘前	大川隆治	八戸	松橋優花
		つがる弘前	鳴海将貴	八戸	齋藤美咲
		相馬村	佐々木善久	八戸	上村僚
		津軽みらい	一戸貴文	八戸	坂本咲月
		津軽みらい	高井映里	八戸	田沢良子
		津軽みらい	成田剛	八戸	畠中喜浩

合格おめでとうございます。

新風

J A おいらせ

祖父母の畑

受け継ぐ

三沢市出身の澤村剣心さんは、祖父母の影響で農家を志し、ゴボウやナガイモ、バレイショを栽培している。就農を決意し、まず始めに人手を探している農家へ手伝いに行き、さまざまな経験を積みながら農業への理解を深めた。

澤村さんは3年間の修業を積み、祖父母から受け継いだ畑で昨年初めての収穫を行った。「受け継いだ畑と初めての収穫を祖父に見せることが出来なかった」と話す澤村さん。一人立ちした自分と受け継いだ畑を見せたかったが、残念ながら叶わなかった。

他の農家さんと交流する中で農業の面白さや奥深さを感じている。一昨年前にJ A おいらせに加入。「農作業に取り組むうえで栽培技術や農薬などの相談をJ Aの指導課にしている。農家仲間を増やしたいと思い、指導課の提案で昨年から人參オペレーター協議会にも参加している。農家さんと知り合い、情報交換できる場が増えて嬉しい」と話す。

これから展望として「作付けしている3種で面積を増やしつつ、より良い品質のものを生産していく。少しでも手を抜くと上手くいかないので、必要な手間は惜しまず取り組んでいきたい」と語った。



トラクターを操縦する澤村さん

後編 記集

節分の豆まきが終わり、春が待ち遠しいですが、まだまだ寒い日が続いているのでインフルエンザ等にかかるないように気をつけて過ごしたいですね。

1月上旬に数年ぶりに東京へ旅行に行ってきました。スカイツリー（634m）に行ったことがなかったので行ってみたのですが、世界一高い自立式電波塔の名のとおりとても高かったです。特に450m地点

の展望回廊の夜景は絶景でした。夜だったので富士山は見えませんでしたが、東京タワーは見ることができました。

スカイツリーの「足もと」にある東京ソラマチはショッピングなども楽しめますので、機会があったら立ち寄ってみてはいかがでしょうか？

Have a nice February (克)



▲見上げると首がいたい…



▲東京タワー（333m）はどこかな？

ホームページアドレス

- J A 青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J A バンク青森 <https://aomori.jabank.org>
商品・サービスのご案内のほか、マネシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A 全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A 共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

お米学習の集大成

12月10日、相馬小学校の5年生が米に関する学習の一環として、調理実習を行った。この授業は、児童たちが4月下旬にJA育苗施設を見学し、5月に田植え、9月に稲刈りを経験した後の締めくくりとなる。最後の学習では、JA相馬村女性部員のサポートを受けながら、自分たちが育てた「青天の霹靂」、県産米「まっしぐら」と「はれわたり」を皿に盛りつけて食べ比べを行ったり、おにぎり作りにも挑戦した。

児童たちにどのお米が好きか尋ねると、「全部おいしい」「家でよく食べているから青天かな」「初めて食べたけどはれわたりも美味しい」といった声が聞かれ、普段できない体験に目を輝かせていた。

おにぎりの具材には「さけ」「昆布」「シーチキン」などが用意され、それぞれ個性豊かなおにぎりが作られていた。中には、用意された具材を全て入れて、まるで昔話に出てきそうな特製おにぎりを作った児童もいて、最後まで女性部員も児童たちも笑顔があふれる中、学習を終了した。



林修先生のまるわかり講座 JAってなにをしているの?

JAグループサポーターに就任した林修先生に、気になるテーマをまるっと解説してもらいます。今回のテーマは、全国各地で活動する「JA」の取り組みです。

安全・安心な農と食を支えています

消費者ニーズの変化をすばやくキャッチ

JAは、全国各地でたくさんの農畜産物の生産や、流通に関わっています。消費者の皆さんにもっと喜んでいただるために、甘みを凝縮した高糖度の果物や、機能性がある野菜など、新たな品種の開発や生産にも力を入れています。

近頃は、ライフスタイルが変化して、外食や惣菜、弁当などの調理食品を利用する人が増えました。あらゆる場面で安全・安心な食材をお届けするために、JAでは外食・中食の関連企業と提携したり、加工場を作ったりして、時代の変化に伴う新しいニーズに柔軟に対応しています。



よりおいしいトマトの生産を追求する研究施設「全農トマトランド」

新しく就農する人をサポート

「新しく農業を始めたい!」と思っても、何から手を付ければいいか分からず不安に思う人もいます。JAは、そうした新規就農者を行政や各団体と連携し、研修から就農、定着まで段階を踏んでサポートしています。



新規就農者の研修で機械の操作を学ぶ

最新の農業技術にチャレンジ

土の養分などの状態が分かる土壤診断や、ICT技術、牛の受精卵を移植する技術(ET)などの研究・開発など新しい農業の技術も積極的に取り組んでいます。また、安価なジェネリック農薬の普及、農業機械のレンタルなども取り組んで、農家の労力負担を減らしています。



先端技術で畜産・酪農を支える
JA全農ET研究所

幅広い事業でインフラ機能を発揮

JAが行っているのは、農業に関する事業だけではありません。地域の暮らしを支えるための貯金、貸出などの信用事業や、生命、建物、自動車等の共済事業、高齢者福祉、病院、旅行など幅広い事業があります。



地域の需要に応えるJAのコンパクトセルフSS

楽しい交流イベントもたくさん

JAの組合員の中には、農業を仕事にしている人(正組合員)も、会社員や主婦のように農業を業(なりわい)としていない人(准組合員)もいます。JAは、地域の特色を生かしたJAまつりなどのイベントを開催し、組合員同士や地域住民のつながりを深めています。



JA主催のまつりで
さまざまな住民が交流を深める

盛り上がるファーマーズマーケット

全国には約1700ものJAファーマーズマーケット(農産物直売所)があります。地域の新鮮な農産物が並び、人気ですよね。



新鮮な農産物が並ぶ直売所

住民の皆さんに地域の農業を深く知ってもらい、もっと農業を好きになってもらうため、売り場を充実させただけなく、農家や農産物のPRも盛んです。

Point

消費者ニーズの変化や新規就農者へのサポート、新しい農業技術の開発など、時代の流れに柔軟に対応してますね。JAは、農業はもちろん、暮らしに関わるさまざまな活動を通じて地域を支えている組織なんですね。

JAグループサポーター 林 修(はやし・おさむ)



JA旬みっけ!

今すぐ無料でアプリをはじめよう!

©みんなのよい食プロジェクト

あなたにおすすめの
「旬」な情報を届け



旬の情報

お近くのJA・ファーマーズマーケットを登録すると、店舗でのオススメ農産物の情報など、あなたにぴったりのお得な情報を配信。



旬の食材

100種類を超える野菜・果物が収録された「旬の食材辞典」には、毎日の食事に役立つ情報がたくさん!



無料ダウンロードはこちら。またはアピリストアで検索



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ



J A全農あおもり やさい部やさい花き課 工藤 康晴 さん

輝き

●プロフィール

2025年4月から勤務 平川市出身 23歳

— 働くきっかけは？ —

祖父母の代まで兼業農家をしていたのと、自身も農業高校出身ということから農業に対して、親しみがありました。また、祖父が地元の農協に勤めていたことから、JAという組織を身近に感じており、そのなかでも青森県の農業振興に携われる全農あおもりに入会しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

販売代金精算や価格安定事業事務の補助等の業務に携わっております。特に販売代金精算業務では、一つのミスが市場や農協など多くの方に迷惑をおかけしてしまうため、特に集中して取り組んでおります。

— 働いた感想は？ —

上述した業務に従事するなかで、細かいミスをしてしまい、二重チェックの際に指摘されることがあります。こういった詰めの甘さがまだあるため、何度も確認し、ミスを出さないように今後も気をつけて従事していきます。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の精神で、些細なことでも疑問に思ったことは何でも質問するように心がけております。特に私の職場ではOJTという新人に対して指導してくださる先輩がつく制度があり、その先輩がいついかななる場合にも懇切丁寧に教えてくださるおかげで、日々確実にできること、わかることが増えてきていると感じています。

— 特技・趣味は？ —

車が好きで、平成13年式のマニュアル車に乗っておりました。不等長エキゾーストサウンドは最高です。また、昨今流行りの競走馬擬人化育成ゲームを嗜んでおり、その影響で週末は競馬観戦に興じております。アウトドアからインドアまで趣味の幅は広いと思います。

— あなたが自慢できることは？ —

あくまでも推測の域を出ませんが、農協会館内に勤務する各連の職員のなかで、自分の年齢よりも古いマニュアル車に乗っているのは私だけなのではないかと自負しております。また、英語はできませんが、津軽弁はリスニングもスピーキングもできます。

— 将来の夢は？ —

先輩方のような頼りになる職員を目指して、日々研鑽を重ねてまいります。また、スピリットとして、その魅力の発信にも尽力してまいります。

将来にわたり食料を生産していくための

取り組みが進んでいます。

生産資材の高騰が生産者を直撃

農業に必要な肥料や家畜のエサ、燃料の価格が高止まりしています。これらのコストが農畜産物の価格に反映されない状況が続ければ、農業が続けられず、消費者の皆さんに安定して食料を届けることができなくなってしまいます。



農業と食の安心を、未来へ

生産から消費に至るまで、どこかに過度な負担が生じることなく、再生産可能な農畜産物の価格を実現することは、私たちが安全・安心な国産農畜産物を食べ続けられることにもつながります。

コストを考慮した適正な価格の形成は、農業と食の安心を、未来につなげていく取り組みといえるでしょう。

コストを考慮した価格で農畜産物が販売されると…



持続可能な農業と食の実現に向けた環境づくり

消費者の理解のもと、生産から消費までの各段階の関係者が協調し、持続可能な食料システムの実現を目指す法律が、今国会で成立しました。

令和8年4月の全面施行を予定しています。



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ